

災害時要配慮者避難体制整備サポート事業 全体概要

目的と概要

(1)福祉避難所を中心とした要配慮者支援の課題

- ①福祉と危機管理に**所管が分かれる**ため、調整が難しい
- ②一般避難所とは異なる**福祉避難所の運営体系**が確定していない
- ③地域の自主防災組織や福祉事業者との**意思疎通が不十分**

(2)本事業の目標

- ①市町村の所管別担当者や地域住民、福祉関係者等との意思疎通を図るための**素材を提供**する(マニュアル、動画)
- ②素材を活用するための研修や訓練を行い、**普及促進**を図る

(3)本事業で作成した成果物と活用方法

- ①災害時要配慮者避難支援マニュアルの作成
- ②福祉避難所訓練実施マニュアルの作成(動画版、冊子版)
目標:参加者や会場、準備期間の条件に応じた訓練素材の提供
- ③モデル市町村での訓練を支援(本事業の成果物を応用)

(1)訓練実施条件の確認

(2)訓練場面の選択 動画マニュアルの活用

(3)会場確認 参加者・オブザーバー配置

(4)資機材確認 パーテーション、簡易トイレ等

(5)訓練進行資料編集 想定、シナリオ、検討課題

(6)最終確認→訓練実施 進行役と補助・撮影者配置

(7)事後検証・意見交換 モデル市町リモート会議

モデル市町に
対する支援内容

※モデル市町

〔行田市
蓮田市
滑川町〕

本事業の実施経過

福祉避難所を中心とした要配慮者支援

- ①個別避難計画・福祉避難所への直接避難を中心とした、実践上の課題と対応策の検討
- ②検討結果に基づき、要配慮者避難体制に関する行動を具体化(動画、冊子版のマニュアル)

令和4年度 事業成果

- ①災害時要配慮者避難支援マニュアル(冊子版・動画版)

福祉施設個別の福祉避難所訓練素材

- ①福祉避難所対策の課題をモデル市町で検討
- ②災害時要配慮者避難体制を、福祉避難所を中心に可視化する資料の作成
- ③行政と複数施設が連携する福祉避難所と要配慮者支援(行先調整)の再現

令和5年度 事業成果

- ①福祉避難所の課題と背景(モデル市町会議)
- ②福祉避難所訓練動画マニュアル

訓練素材活用と要配慮者支援の拡充

- ①福祉避難所訓練に取り組みやすくする条件の検討→昨年度作成した動画マニュアル活用
- ②避難者の「本来の居場所」を行政と福祉関係者が連携して確保する「行先調整」をシミュレーションする研修実施

令和6年度 目標成果

- ①福祉避難所の基礎と災害規模に応じた対応
- ②福祉避難所訓練動画マニュアル活用事例



行田市の訓練事例

訓練前の状況

- 一次避難所は危機管理部門、福祉避難所は福祉部門という線引きがされており、連携体制が構築できていない。
- 協定を締結してからこれまでの間、連携した取り組みの機会はなかった。
- 協定を締結してからこれまでの間、訓練・研修は実施できていなかった。



訓練の内容

- 場所 特別養護老人ホーム（ふぁみいゆ行田）
- 訓練実施者 特別養護老人ホーム職員 市職員（地域共生社会推進課・危機管理課）
- オブザーバー 福祉避難所協定施設、民生委員、社会福祉協議会 近隣市町村（加須市、羽生市）
- 内容
 - ・事前レクチャー（福祉避難所の概要、訓練の進め方）
 - ・シナリオ読み上げ訓練（発災直後～福祉避難所開設）
 - ・グループワーク（福祉避難所の確保～運営開始）
 - ・資機材組立て～避難者受入れシミュレーション
 - ・動画マニュアル視聴（訓練で再現できない場面）
 - ・意見交換、今後の予定

訓練を実施して

（行田市職員の感想）

- 協力の必要性を実感できた。危機管理部門と福祉部門の役割を明確にしないとない部分があることを発見できた。
- 今回の訓練シナリオなどをベースに、来年度以降も開設・運営訓練を実施する足掛かりを作ることができた。
- 今まで予想でしかなかったものが、具体的なイメージとして湧いた。

（訓練実施者の特別養護老人ホーム職員の感想）

- イメージに沿って訓練を重ねることが大切だと思うし、福祉避難所への流れを理解できた。

（オブザーバー（近隣市町村）の感想）

- 動画マニュアルの視聴は、自主的な訓練を行う場合、人員の不足を補えるのではないかな。

（今後の課題）

- 危機管理部門では、実際の災害時には一次避難所の管理などで人手が割けないと思う。どのような連携ができるのか確認を進めたい。



グループワーク



資機材組立て



避難者受付



動画マニュアル視聴

蓮田市の訓練事例

訓練前の状況

- 各役割分担の中で対応していかなければならないが、危機管理部門は全体を監理する事務局となり、福祉部門は実行部隊となるため、その意識づけと職員や協力者の動員が課題。
- 避難所の開設・運営に係る市職員は、通常の避難所運営班を想定しているため、福祉避難所開設に手が回らない可能性もある。
- 平成31年の九都県市合同防災訓練を老人福祉センターで実施後、コロナ禍もあり、実施していない。



訓練の内容

- 場所 蓮田市総合文化会館ハストピア
- 訓練実施者 市職員（福祉課・危機管理課）
- オブザーバー 福祉避難所協定施設、民生委員、社会福祉協議会 近隣市町村（幸手市、白岡市、宮代町、杉戸町）
- 内容
 - ・シナリオ読み上げ訓練（安全確保～通常業務休止～福祉避難所開設）
 - ・資機材組立て～避難者受入れシミュレーション
 - ・グループワーク検討（避難者からの要望等対応）
 - ・グループワーク発表（検討結果と課題）
 - ・動画マニュアル視聴（訓練で再現できない場面）
 - ・能登半島地震時の福祉避難所事例紹介

訓練を実施して

(本事業で得られた成果等の感想)

- 県のモデル事業の参加することで、所管課をまたぐ職員の参加が進めやすかった。
- 避難者の受入れまでは想定してしたが、要配慮者の生活をサポートする運営の必要性が分かった。
- 福祉避難所をいつ、誰が、どのように設置するのか、各部門の意識づけと考え方の相違を明確にすることができた。
- 訓練用のシナリオを読む進行資料やアクションカード、資料編は、今後も役立つ。県事業でバージョンアップするとありがたい。

(今後の課題)

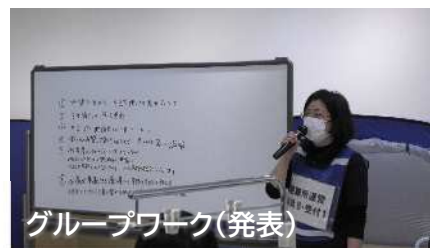
- 避難所開設、運営訓練を、職員対象に定期的実施していくことが大切であることを認識したものの、いかに継続していくかが課題。
- 他自治体では、福祉施設を福祉避難所として位置付けしていたため、当市も今後は同様の対応していく必要がある。
- 災害受援計画を2年前に作っているが、シミュレーションをしたことがない。その活用や関係者との共有が課題になる。



資機材組立て



避難者受付



グループワーク(発表)



動画マニュアル視聴

滑川町の訓練事例

訓練前の状況

- 発災後は一般避難所の設置が最優先なため、職員配置や福祉避難所開設の流れがイメージできていない。
- 職員は地域防災計画を確認するのみで、福祉避難所はイメージが湧かない状況。
- 2年に1度の防災訓練は集合訓練が主な内容であり、福祉避難所開設が主題の研修・訓練は実施していない。
- 資機材の名称は把握していても、実際に見たり触れたりする機会が少ない。



訓練の内容

- 場所 滑川町コミュニティセンター
- 訓練実施者
市職員（福祉課・高齢介護課・総務政策課）
福祉避難所協定福祉施設職員
- オブザーバー
社会福祉協議会
近隣市町村（ときがわ町、鳩山町、東松山市、小川町、吉見町）
- 内容
 - ・事前レクチャー（福祉避難所の概要、訓練の進め方）
 - ・シナリオ読み上げ訓練（発災直後～福祉避難所開設）
 - ・グループワーク（福祉避難所の確保～運営開始）
 - ・資機材組立て～避難者受入れシミュレーション
 - ・動画マニュアル視聴（訓練で再現できない場面）
 - ・意見交換、今後の予定

訓練を実施して

（滑川町職員の感想）

- 福祉避難所対応体制について、福祉担当や防災担当以外での非常事態時危機管理体制への意識共有を図れた。
- 町や福祉避難所職員へ、発災後～開設のイメージ共有ができた。
- 今後も訓練を継続実施していけるようスケジュール調整を行いたい。
- 施設を利用した訓練の要望も話もあり、防災意識へ繋がった。

（オブザーバー（近隣市町村）の感想）

- 施設の人を交えることにより、普段聞く機会の少ない現場の声を聞くことができる。
- 県のサポート事業における訓練内容が把握できた。当町においても同様の訓練を実施してみたい。

（今後の課題）

- 職員の間でも避難所と福祉避難所の区別がついていない職員もいるため、そういった基礎的な座学研修や訓練が必要。
- 県のアドバイザー事業であれば施設の選定や人を集めることは可能だが、全てを福祉課と総務課で行うのは人数的にも厳しい。



グループワーク



資機材組立て



避難者受付



動画マニュアル視聴

行先調整研修（3モデル市町同時実施のリモート型研修）

研修の目的と進行

- モデル3市町での福祉避難所訓練は、開設～運営開始（ルール決めや避難者への説明）までが対象。
- 実際の災害では、要配慮者と福祉施設を支援するDWAT（災害福祉支援チーム）等の支援部隊が活動を開始する。
- リモート研修では、避難者と多職種の支援部隊の応援を想定し、「避難者にとっての現実的で最適な居場所」を考えるシミュレーションを行った。

研修の様子と感想



事前レクチャー



会場風景（行田市）



グループワーク



講師に対する質問

避難者カード

<p>● 42歳・女性 ● 知的障がい A2 ● ADL自立 ● 障がい年金 ● 悲鳴のような声を出す事がある。</p>	<p>三田むたこ 追加情報 ● 70代の両親が県外にいる。協力的だが、一緒に暮らすことは拒否されている。</p>	<p>ゲームの流れ① ○避難者事例のカードを取り、その事例に対して、避難所生活を安心して送って頂くために、どの団体と連携することが良いのか？を話し合う。 ○避難者の様子が変わったことや新たな情報が分かったことを想定し、引き続き支援団体との連携を判断する。</p>
--	--	---

支援団体カード

<p>医療系団体 災害派遣医療チームです。医師、看護師がチーム員として所属し、薬の処方箋や治療を行うことが出来ます。DMAT、DHEAT、DPAT 災害派遣ナースなど</p>	<p>栄養士系団体 被災施設や避難所において栄養補給の支援や、緊急栄養補給物資の支援を行います。誤嚥や口内炎にも対応します。JDA-DAT、栄養士会など</p>	<p>ゲームの流れ② ○別の避難場所に移動していただいた方が良い場合は、行先シートにカードを移動させる。 行先：自宅、親戚・知人宅、ホテル・旅館、福祉避難所、車中泊、特養、有料老人ホーム、グループホーム、仮設住宅、病院 ○更に追加情報が出れば、どの団体と連携する必要があるかを判断し、行先を更に変える。</p>
---	--	---

（行田市の感想）

- 具体的な事例を想像しながら行えたので勉強になった。施設から参加したふぁみいゆ行田は高齢者施設だが、障害者が来た場合を考える機会になった。
- 今後もいろんなパターンを想定しながら発展させていきたい。

（蓮田市の感想）

- 被災地に支援に行かれた方の話では、避難者のバックグラウンドなどが、なかなか聞き取れないということだった。研修でカードが複数枚あったが、その話と同じだと思った。
- 最適な行先は、お体の状態や精神状態などが聞き取れて初めて判断できる。そういったスキルの重要性を感じた。

（滑川町の感想）

- 福祉避難所訓練から発展した形での行先調整研修だったが、行先調整した結果が正解なのかどうかに難しさがあった。
- 行先調整研修のメインは行政より福祉事業者なので、事業者メインで研修できる体制作りを考えていくべきだと思った。